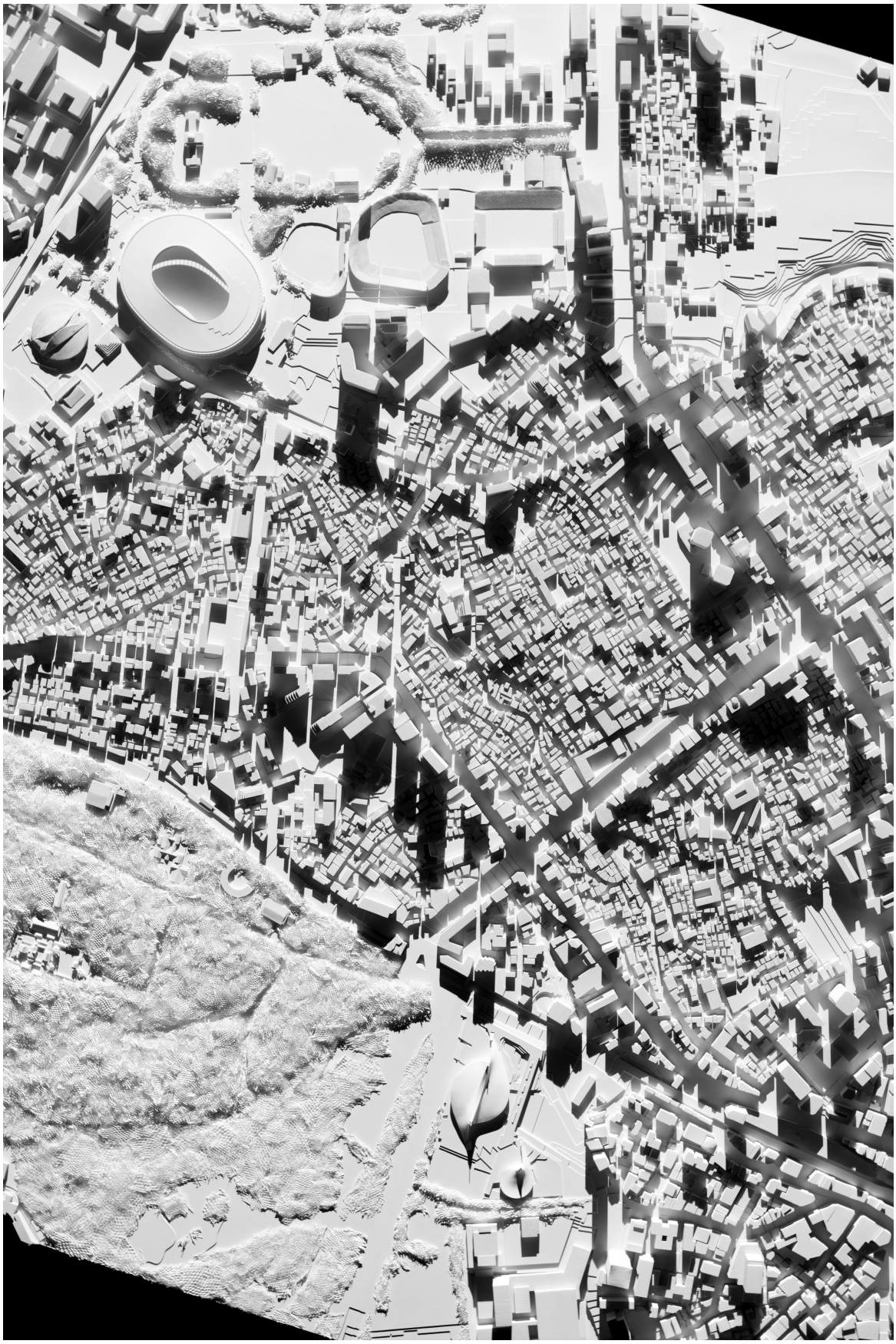

撮影：瀧本幹也

第791回デザインギャラリー1953企画展

丹下健三と隈研吾 二つの国立競技場

会期　12月27日(金)—2025年2月17日(月)

会場　松屋銀座7階デザインギャラリー1953
東京都中央区銀座3-6-1

［関連イベント］連続講演会

丹下健三と 日本デザインコミッティー

会期　第1回 2025年1月18日(土) 13:30-15:30
第2回 2025年1月25日(土) 15:00-17:00

会場　代官山ヒルサイドテラス ヒルサイドプラザ
東京都渋谷区猿楽町18-8

本企画展は2024年5月から6月にかけて、
パリ日本文化会館で行われた「丹下健三と隈研吾展」を
国立代々木競技場と国立競技場についてフォーカスを当て再編集し、開催されます。
二つの国立競技場は異なる時代背景の中で建設され、開催された競技も異なりますが、
「ランドスケープ、線、軒、アーチ効果」という四つのキーワードを通じて、
戦後日本の近代建築の特徴を体感いただけます。
特に、石元泰博（故・日本デザインコミッティーメンバー）と瀧本幹也のモノクロ写真を対比することで、
二人の建築家の共通点や違いを知る手がかりを見つけられることでしょう。

第791回デザインギャラリー1953企画展

丹下健三と隈研吾
二つの国立競技場

会期　12月27日(金)—2025年2月17日(月)　最終日午後5時閉場・入場無料
※営業日・営業時間の詳細は、松屋ウェブサイトをご覧ください。www.matsuya.com

主催　日本デザインコミッティー
共催　（一社）国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会　https://gysc.or.jp/
協賛　（株）大林組、清水建設（株）、大成建設（株）、前田建設工業（株）、（株）梓設計
特別協力　代官山ヒルサイドテラス
協力　高知県立美術館 石元泰博フォトセンター、
瀧本幹也写真事務所、幕田早紀（千葉大学）
キュレーター　豊川斎赫
展覧会担当　原 研哉

1964年と2020年の東京五輪とその競技場の建築は、国情を反映するものとして対比的に語られる。モダニズムの目で被写体を見る石元泰博と、カメラの進化とともに現代性を更新し続ける瀧本幹也の写真は、日本の移ろいを象徴的に担う二人の建築家の仕事を見事にとらえていて興味深い。

展覧会担当　原 研哉

■お問合せ
日本デザインコミッティー事務局　Email: info@designcommittee.jp　https://designcommittee.jp

---

戦後日本のデザインの啓蒙を目的に創立された「国際デザインコミッティー」（現・日本デザインコミッティー）。
創立メンバーには建築家の丹下健三や清家清、吉阪隆正、デザイナーの亀倉雄策や写真家の石元泰博がいました。
時代をリードする多彩なジャンルのメンバーがデザインを通じた国際交流と普及を目指し活躍した時代がありました。
そして現在、デザイン・建築・写真・アートの垣根をこえて活躍する方々に、それぞれの思いを語っていただきます。

［関連イベント］連続講演会

丹下健三と
日本デザインコミッティー

Mikiya Takimoto

Yoshitaka Haba

Qiuyu Jin

Kengo Kuma ©Designhouse

Kenya Hara

Mai Tsunoo

会場　代官山ヒルサイドテラス ヒルサイドプラザ
※入場無料・要事前申込

第1回 2025年1月18日(土) 13:30-15:30
「石元泰博と丹下健三」瀧本幹也 × 幅 允孝
モデレーター：金 秋雨

第2回 2025年1月25日(土) 15:00-17:00
「亀倉雄策と丹下健三」原 研哉 × 隈 研吾
モデレーター：角尾 舞

お申し込みはこちらから
https://forms.gle/BDsnJE6d9FV4mBhh7

一般社団法人
国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会
のHPからもお申込みできます
http://gysc.or.jp

■主催・お問合せ
一般社団法人国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会　Email: info@gysc.or.jp

G. Y. S. C.
General Incorporated Association Yoyogi National Gymnasium Steering Committee for World Heritage Nomination

大林組　清水建設　TAISEI For a Lively World　前田建設　AZUSA SEKKEI